



せなみっこ

第13号

令和5年2月27日

村上市立
瀬波小学校



瀬波小HP

「働き方改革」

～地域全体で子供たちを育む体制整備～

校長 若月 隆雄

子供たちが生きていく未来は、IoT やビッグデータ、人工知能 (AI)、ロボットなどの新たな技術の進展により、変化の激しい時代になります。子供たちには次の時代を切り拓くために必要な力が求められており、その力を育むために、これまで以上に学校が教育活動に力を注ぐ必要があります。

しかし今、学校教育を支える教師たちの長時間勤務は深刻な状況にあり、教師の働き方を見直す「学校の働き方改革」が進められています。これまで「子供のため」という合言葉のもと、学校では、社会の様々な要請を受けながら、熱意や使命感ある教師たちが、子供に関わる多くの業務を担ってきました。教師の働く環境が厳しいと、意欲・能力のある若者が教師を志さなくなり、学校教育の質の低下を招くことにもなりかねません。

そこで、教師のこれまでの働き方を見直し、限られた時間の中で、子供たちに効果的な教育活動を行えるようにするために「学校の働き方改革」の推進が求められています。

平成 31 年 1 月、文部科学大臣の諮問機関である中央教育審議会が、学校の働き方改革を推進するための総合的な方策を示した答申を取りまとめました。一部紹介します。

I 「勤務時間を意識する」

教師にとっても子供にとっても「時間」は有限です。優先順位をつけて、子供たちに効果的な教育活動を行うことが求められています。文部科学省は、「公立学校の教師の勤務時間の上限ガイドライン」の中で、教師が決められた勤務時間を超えて学校などで勤務する時間の上限として、1 か月 45 時間、1 年間 360 時間以内などの目安を定めました。また、教育委員会が、教師の勤務時間を踏まえて適切な登下校時間を設定すること、緊急時の連絡方法を確保した上で留守番電話の設置やメールによる連絡対応を可能とすること、中学校で長時間に及んでいる部活動について適切な活動時間や休養日を設定することなどに取り組むことも提案しています。

II 「学校の業務を減らす」「家庭・地域等と役割分担をする」

教師が授業などの本来の業務に専念できるようにするため、これまで学校・教師が担ってきた 14 の業務を仕分けし、優先順位をつけて減らしたりすることを提案しています。

【学校以外で担うべき業務】

- (1) 登下校に関する対応 (2) 放課後から夜間などにおける見回り、児童生徒が補導されたときの対応
- (3) 学校徴収金の徴収・管理 (4) 地域ボランティアとの連絡調整

これらについては、基本的に「学校以外が担うべき業務」で、業務内容に応じて、地方公共団体や教育委員会、保護者や地域ボランティアなどが担うべきとしています。

【必ずしも教師が担う必要のない業務】

- (5) 調査・統計等への回答等 (6) 児童生徒の休み時間における対応 (7) 校内清掃 (8) 部活動

これらについては、学校の業務となりますが、必ずしも教師が担わなければならない業務ではありません。教師以外の担い手として、地域ボランティア等の活用が挙げられています。

【教師の業務であるが、教師の負担軽減が可能な業務】

- (9) 給食時の対応 (10) 授業準備 (11) 学習評価や成績処理 (12) 学校行事の準備・運営 (13) 進路指導
- (14) 支援が必要な児童生徒・家庭への対応

これらについては、基本的に学校・教師の業務であるとし、その上で、それぞれの業務について、サポートスタッフ、事務職員や民間委託の外部人材等との業務分担により対応を図るべきとされています。

これまで学校の伝統として行ってきたものであっても、学びや発達の観点からは必ずしも適切とはいえないものの、本来は家庭や地域が担うべきものなどは、大胆に削減することが重要としています。学校だけでなく、地域全体で子供たちを育む体制を整備することが重要です。そのためには、社会全体の理解・協力が不可欠です。ご家庭・地域の皆さんも学校の働き方改革の必要性をご理解いただき、ご協力をお願いします。

学校評価アンケート（後期）の結果について（お知らせ）



今年度2学期末に行いました学校評価保護者アンケートの結果をお伝えします。保護者の皆様からは、多くのご意見を寄せていただきました。皆様からのご意見を全職員で検討し、来年度の教育活動に生かしていきます。今後ともご支援・ご協力をお願いいたします。

- ・数字は「当てはまる」「だいたい当てはまる」等の肯定的回答をした人の割合
- ・（ ）の数字は昨年度の後期の割合

1 かしくく（「確かな学び」について）

- 「授業の内容が分かっていると思いますか？」 ⇒ 83.0% (79.2%)
「家庭学習をがんばっていると思いますか？」 ⇒ 68.8% (73.4%)

- ★ 授業内容の理解については、概ね理解している様子がうかがえます（国語・算数のワークテストで全国平均点を超えた児童の割合：国語 82%・算数 73%）。
- ★ 児童の自己評価（「書いたり、考えたりした自分の意見を友達に説明しようとした」81%）からも、友達と考えを交流しながら学習に取り組んでいる様子がうかがえます。今後も、「学ぶ楽しさ・分かるよろこび」をめざし、友達と学び合う授業を進めていきます。
- ★ 「どの科目も興味を引き出すようなご指導をいただいております。苦手な体育も「達成感」を感じられるような目標設定などを配していただき、毎日楽しく登校できています。」（ ）部分は保護者アンケートの記述部分 以下同様）、「勉強する気持ちが強くなったように感じます。字もしっかり書くようになったし、先生からのコメントや言われた言葉一つ一つが嬉しいのか、たくさん伝えてきてくれますし、見せてきます。」等、前期同様に各担任の指導・支援について好意的にとらえてくださる意見が多かったです。
- ★ その反面、「得意、不得意があり、苦手なところはそのままにしないで教えてほしい」との要望もありました。月例テスト等で個々の見取りを行い、「せなみっこタイム」等を計画的、効果的に活用しながら、一人一人の基礎・基本の定着を確実に図っていきます。
- ★ 家庭学習については、児童の自己評価の結果（せなみっこカード：「家庭学習週間中、『学年×10分』を達成」92%）からも、学習習慣が定着している児童が多いことがうかがえます。次年度は、「①学習計画を立てて取り組む指導」「②教科書やタブレットを使用する宿題の工夫」「③学力差、意欲差などに対応できる宿題の個別化」「④学力の定着につながる家庭学習」を重点的に取り組んでいきます。

2 たくましく（「健やかな体」について）

- 「よく運動や体を動かす遊びをしていますか？」 ⇒ 61.0% (62.9%)
「早寝早起きをしていますか？」 ⇒ 74.4% (75.5%)
「朝ごはんを食べていますか？」 ⇒ 94.3% (93.7%)
「苦手な物でも食べようとしていますか？」 ⇒ 62.4% (61.1%)

- ★ 学校では、多くの児童が運動を楽しんでいます。しかし、前期と同様に、下校後の運動不足が懸念されます。冬場の悪天候、遊ぶ場所の不足などが指摘されています。外遊びの不足が、家庭でのメディア利用の多さにもつながっているようです（いきいきせなみっこ週間『平日メディア利用は2時間以内を4日以上達成：1学期：90%、2学期：85%、3学期：84%』）。
- ★ メディアに関わる講演など、授業を行うことで、メディア時間について、客観的に捉えることの出来る児童が増えてきています。次年度も学期に一回、メディア利用を考える機会を設けることで、1年間意識を継続的できるよう取り組んでいきます。

3 あたたかく（「豊かな心」について）

- | | |
|--------------------------|-------------------|
| 「学校で楽しく過ごしていると思いますか？」 | ⇒ 95.1%（前期 94.3%） |
| 「あいさつの習慣はついてきていると思いますか？」 | ⇒ 75.2%（前期 76.7%） |

- ★ 児童アンケートからも、学校が楽しい（児童アンケート：肯定的評価 93%）と感じている児童が多いようです。職員が児童の頑張りを認めたり、各学級で児童同士が良いところを認め合う活動を行ったりしたことが、成果につながっていると考えています。その一方で、学校での生活に不安を抱えている児童もいるようです。学級経営やQ-Uの活用方法等についての職員研修を行い、全学級で同じベクトルを向いた取組ができるよう取り組んでいきます。また、児童へのアンケートの他に、教育相談週間を設け、児童一人一人と担任が話をする機会を次年度も設けていきます。児童一人一人に寄り添った支援を今後も継続していきます。

※ Q-Uとは、「楽しい学校生活を送るためのアンケート」のことです。

- ★ 気持ちの良いあいさつに関しては、児童・保護者アンケートの結果に17.7ポイントの差（児童アンケート 92.9%）が見られました。学校内でのあいさつに比べ、家庭では十分できていないことが課題としてあげられます。家庭内のあいさつの意識を高めるために、来年度は、家庭学習強調週間の項目にあいさつを入れる等、家庭への啓発活動を行うなど、家庭と連携しながら、あいさつの習慣化を図っていきます。

2月15日（水） 第3回学校運営協議会

会議では、上記の内容の他に以下の内容についても、協議を行いました。

- 学習時のタブレットの活用について
 - ・ タブレットの活用と、文字を書く活動の両立について
 - ・ 家庭でのタブレット使用時のルールの設定について
- 図書館の本の冊数の充実について
- 地域と連携した教育活動の充実について
- 登下校時のあいさつ（バス乗降車時のあいさつ）について

<学校運営協議会委員や地域の方の声>

- ・ 校舎外回りの環境がきれいに整備されている
- ・ 伝統である下渡山登山を復活させてほしい
- ・ 子どもたちが落ち着いて学習に取り組んでいる
- ・ 礼儀正しい子どもの姿に感心している
- ・ 帰りのあいさつはよいが、朝のあいさつは、今ひとつ元気がない（家庭でのあいさつが大切である）